

第三回学校運営協議会（全日制部会）議事録

校名	府立 春日丘高等 学校
校長名	濱崎 年久

開催日時	令和 6 年 2 月 6 日 (火) 14:00 ~ 15:30
開催場所	大阪府立春日丘高等学校 本館 1 階 校長室
出席者(委員)	花崎委員、伊藤委員、有福委員、 笠原委員、 藤委員
出席者(学校)	濱崎校長、藤澤教頭、野田事務部長、大岡首席、山田首席
傍聴者	なし
協議資料	R5学校教育自己診断（生徒・保護者・教職員）、R5学校経営計画及び学校評価、R6学校経営計画
備考	

議題等(次第順)

- < 報告・協議事項について >
- ①学校教育自己診断の結果について
 - ②R5学校評価について
 - ③R6学校経営計画について（定時制含む）
 - ④その他（令和 5 年度を振り返って）

協議内容・承認事項等（意見の概要）

○運営協議会委員の発言 ●本校教職員の発言

学校教育自己診断<生徒>について

○およそ10%ほどの生徒がいじめについて真剣に対応してくれないと思っていることは問題ではないか。
 ○普段からいじめがあるわけではないだろう。定期的にアンケートなどをしていじめがあれば把握する働きかけは行っているはず。どちらかという、先生に対していろんなことを話しやすい雰囲気があるかどうか、くらしい意味で捉えているのではないか。
 ○保護者の方から不登校傾向の生徒が一定数いると聞いた。話を聞くと、いじめではないが、人間関係のつまずきで学校にこれなくなったという話をよく聞く。また、自分の思い描いていた姿と違うという理想とのギャップで来られなくなる例もあるとも聞く。何かそういった生徒が壁を乗り越えるきっかけがあればいいのだが。
 ●教育相談委員会を毎週開いており、スクールカウンセラーも学校独自で1名追加し、計2名の方に来ていただいている。それにより、よりきめ細やかな指導を心がけている。中にはカウンセリングを拒否する生徒もいるが、話を聞いてもらって楽になったという子も多い。ご家庭とも連携して対応にあたっているが、何かのきっかけで急に来たりすることもある。

○人間関係の作り方が変わった。昔ほど濃くなく、うわべの付き合いが多い。幼少からそれを言ったら相手にどう思われるかということに気を配る。それにより人間関係において圧倒的な経験不足に陥る。今は何かトラブルがあれば保護者が介入して、自分で乗り越える機会を奪ってしまう。中学生になればある程度自分でやらせるようになるが、それでも保護者の介入はある。全体的に保護者が構いすぎな印象。そもそも人間関係で揉めることは当たり前なのだから。むしろ幼少期では揉めた方がいい。大学生になると人間関係を作らなくなってしまうので、関係を学ぶ機会が大幅に減る。そういった生徒は社会に出たら大変だと思う。今は退職すらも退職代行サービスに頼む時代。世の中全体の流れが、子どもが困らないように、問題が起きた時に対応するのではなく、問題が起きる前に対応してしまう。それもどうなのか。
 ○今は大学でも希望するゼミにはアンガーマネジメントを教えにきてくれたりするが、高校でもLHRなどでそういった、人との接し方を学ぶ話を聞かせてみては。生徒は中学生の頃の感覚のまま大きくなっているのだと思う。SNSを見ている、今は大学生でも感覚が中学生と変わらないと感じることが多い。

○図書館の利用が少ない。今はみんな携帯電話を持っているので、調べたいことがあればすぐネットで調べることができる。そうすると、なかなか活用する機会は少なくなると思うが、その人にとって本を必要とする時期というのがある。生徒全体に開かれていればいいのでは。

○図書館は何のための場所なのかというあり方が変わってきている。その中で、時代が変わっても変わらないものもある。先生方がキラキラと目を輝かせて、この本が面白いよ本心から勧めることができるかどうか。何か図書館活用の奇策を考えるよりかは、そこから始めたほうがいいのでは。

学校教育自己診断<保護者>について

○「学校は情報提供の努力をしているか」で保護者の肯定的な回答が低いが、保護者へのどんな情報があればいいか。

○ライデンメールは子どもと接する機会となっていていい。

○自分の子どもは学校の様子を話してくれたので、学校の様子はだいたい子どもから聞けていた。小学校の時は学校通信などがありがたかったが、それを高校にも求めるのはどうか。子どもと接する時間が大事なので、学校からのお知らせを子どもが出さなければ、子どもと話して接する機会にしてはどうか。子どもが話さないから、学校からのお知らせが欲しいというのも高校生としてはどうなのか。

○PTA会報を配布してみて感じたことは、保護者のところに届いていても目に入っていないこともある。パッと見てパッと分かる工夫をした方がいいのでは。

●ライデンメールでは、タイトルに「学級閉鎖」など内容が分かる工夫をしている。

R5学校自己評価について

○遅刻の多さが毎回話題になるが、今年は激減している。その理由は何があるか。

●遅刻の指導を厳しくしたわけではない。コロナの世代とそうではない世代の差もあるのではないかと。今年からいろんな行事が制限なくできるようになった。単純に行事が楽しいのでは。また、朝、校長も含めて何人かの教員で門のところに立って挨拶をしている。挨拶はすごく大事で、相手の目を見て挨拶をするということは、あなたの存在を認めている、認識しているということを示すことになる。そういったことから、学校が自分の居場所、存在している場所になるのではないかと。

R6学校経営計画について

○茨木市の中学校は非認知能力の育成に力を入れている。「非認知能力」とは、数学など勉強して学ぶ「認知能力」に対して、やる気や、最後までやり遂げる力といった、学問では測れない力をさす。人と人がいて、お互いの多様性を認めることから始まり、折り合いをつける力なども非認知能力に入る。日本は周囲と同調して浮かないことを良しとするが、そういった日本のマインドはもったいない。自分は幼少期に海外で暮らしていた経験があるので、尚更そのように思う。高校でもそういった力を意識して考えてみてもいいかもしれない。